

相談分科会ヘルプカードについて（案）

1 現 状

近年、全国的に地震や水害等の大規模災害が発生している。久留米市および近隣においても、北部豪雨水害や熊本震災などの大規模災害が起こっているのが現状である。基幹相談支援センターでは、平成29年9月に災害支援についての研修会や相談分科会にて災害の勉強会を行なった。その中で、相談支援専門員より緊急時の必要な情報提供として、ヘルプカードを活用することが議題にあがった。

ヘルプカードは援助や配慮を必要としていることを伝えてくれるマークで、伝える手段である。福岡県にもヘルプカードは存在するが、片面はマーク、片面は無地・自由筆記のスタイルとなっている。

自由筆記だけでは誰でも書き辛く、普及に疑問があることから、配慮してほしいことや具体的な記述、コミュニケーションにも利用できるもの等、個人情報に配慮したうえで、日頃の生活や災害時にも使えるようなカードが出来るようワーキングチームを立ち上げ、当事者にも参加して頂いて検討している。

作成にあたっては、ワーキング事務局で検討を図り、記載項目について協議を行ない地域活動支援センターや当事者分科会にて当事者の意見を募っている。

また、重心児の保護者よりワーキンググループが取り組んでいる活動について説明し、趣旨を理解してもらう。特別支援学校の保護者の中でも、ヘルプカードのようなものを作成しようとしている動きもある為、このような取り組みを行っていることを保護者に話してもらいたいといった意見も聞かれた。

（経過）

相談支援専門員から災害時の不安についての声を受け、災害ワーキングを立ち上げ、ヘルプカード制作について、これまで5回の事務局会議と2回のワーキングを実施して試作した。試作品においては当事者分科会やピアくるめの地域活動支援センターに提案して、改善を図り再検討・協力を頂いた。

<ヘルプカード作成の取り組み>

(1) 事務局会議

回数	日時	内 容
第1回	H30. 2. 19	ヘルプカード作成について基幹で検討 他市の情報収集
第2回	H30. 3. 15	地域福祉課へ指定避難所の備品等の情報収集
第3回	H30. 4. 11	第1回災害ワーキング打ち合わせ
第4回	H30. 6. 5	第2回災害ワーキング打ち合わせ

(2) 災害ワーキング

回数	日時	内 容	参加者
第1回	H30. 4. 24	ヘルプカード作成について意見交換	12名

第2回	H30.6.11	ヘルプカードの改善点報告、修正後の協議 当事者からの意見の聞き取り等	8名
-----	----------	---------------------------------------	----

(3) 地域活動センター ピアくるめ参加

日時	内 容	参加者
H30.7.23	活動の中で、ヘルプカード作成についての 主旨説明と作成体験を行なってもらう	当事者：3名 職員2名 基幹センター：1名

(4) バリアフリーカフェ参加

日時	内 容	参加者
H30.7.28	ヘルプカード作成についての主旨説明と 意見交換	当事者：10名 一般：1名 障害者福祉課：1名 基幹センター：4名

(5) 重症心身障害児・者地域生活支援事業 連携会議で説明

日時	内 容	参加者
H30.7.13	ヘルプカード作成についての主旨説明を 行なう	連携会議参加者：14名 障害者福祉課：3名 基幹センター：3名

2 課 題

(1) ヘルプカード作成について

- ・多様性のある障害に対応できるか
- ・個人情報をごとまで開示するか
- ・様々な意見をどのように1つの形にしていくのか
- ・久留米市版作成にあたって、どのように根拠を示していくか
- ・携帯する方法の検討

(2) 周知について

- ・当事者もヘルプマーク、ヘルプカードの認知がなく啓発が出来ていない
- ・支援者である地域住民、企業に対するヘルプカードの広報・周知が必要

3 改善の目的

- ・地域の実情に沿ったヘルプカードを作成することで、久留米市に暮らす（働く）障害のある方の安心できる環境作りを目的とする
- ・必要な情報を明確に記載できるヘルプカードを作成することで、より多くの障害のある方に利用してもらうこと、また支援を行う側も支援しやすい体制づくりを図ることを目的とする

4 改善の基本方針

- ・当事者も支援者も使いやすいヘルプカードの作成及びヘルプカードについての普及啓発

5 改善の内容

- ・作成にあたっては、各分科会、関係機関や団体に協力を得ながら、事例を積み上げ利用しやすいヘルプカードの作成を行う
- ・普及啓発についてはヘルプマークを含め、機関誌や機関のホームページ、広報誌等での周知を検討している。また、ヘルプカードを既に作成している自治体の啓発方法を参考にしながら普及啓発を図ることとする

6 期待される効果

- ・災害時・緊急時に必要な支援をスムーズに受けることが出来る
- ・災害時・緊急時に支援を必要としている方に対して迅速に支援を行うことが出来る

7 スケジュール

- ・他の分科会と連携しながら協議を進めていく